

ライスセンターを造って農業を続けよう

板井四番の十二農家



ライスセンターと大型コンバイン

新幹線高架橋下にライスセンターが完成。この施設は板井四番生産組合が新農業改善事業の近代化施設整備によって建設したもので、全国でも高架橋下を利用したライスセンターはここが初めてです。施設費は3900万円、基礎工事と屋根工事が不用の分、通常のものより500万円近く安くついています。このユニークなライスセンターを紹介します。

農業の近代化にライスセンター

農業の近代化を図る上でどうしても欠かせないのが、経営規模の拡大、経営の複合化、機械の有効利用、生産費の低減などです。この一つの回答として農家の組織化が考えられ、組織の拠点がライスセンターです。

本町にはライスセンターが五つあります。小平方、金巻、木場、板井北部、そしてこの秋に出来た



しゅん工式

板井四番です。ライスセンターは十戸ほどの農家が集まり農作業を共同化するもので、五千万円くらいのお金が必要ですが、国県から補助金が出ます。これを新農業構造改善事業（新農構）といいます。町では農業政策の一つの柱として新農構を取り入れています。新農構はライスセンターを造るだけではありません。農地の基盤整備もありますし、昨年出来た野菜集出荷貯蔵施設もそうです。

新農構は昭和五十六年から始まり前期事業が今年完了しました。総事業費は2億1791万円でした。最後の事業として取り組んだのが、今号で紹介する板井四番生産組合ライスセンターです。

板井4番生産組合ライスセンターの概要

事業主体：板井4番生産組合（構成員…12人 受益戸数…12戸 受益面積…28ha）代表者…渡辺信行
補助内訳：国補助金 19,453,000円 県補助金 1,945,000円 町補助金 1,268,000円（うちコンバインに490,000円）

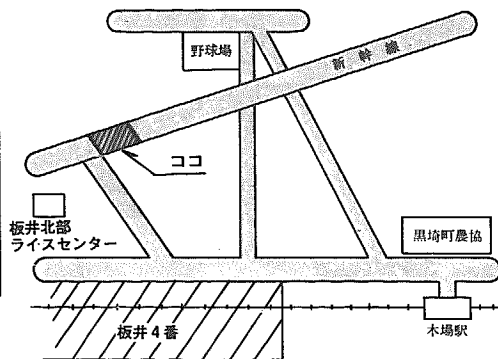
事業内容	経費	施行業者	参考	
			通常のの方法の場合(予定)	板井北部ライスセンター
建物センター228㎡1棟	18,000,000	(株)鉄建建設北陸支所	24,390,000	21,700,000
乾燥機 40石4台一式	18,000,000	(株)静岡精機	16,680,000	16,328,000
作業管理室33.67㎡1棟	1,500,000	(株)日成ビルド工業	1,300,000	1,150,000
設計料	635,000	新潟県経済連	1,300,000	948,000
系統施行管理料	721,000		—	—
小計	38,906,000B		43,670,000A	40,126,000
単独コンバイン多条刈2台	9,800,000			
合計	48,706,000			

※A-B=4,764,000円 この分高架橋を利用して安くなった。

板井4番生産組合運営経費(今年度)

水道	50,000	
電気	300,000	
燃料	400,000	
借地	326,000	次年度は 100,000
労働賃金	1,170,000	※1 センター 1,246,424
償還	2,900,000	コンバイン 1,647,821
機具費	700,000	
事務	70,000	雑経費
その他	200,000	
小計	6,076,000	
組織育成費	△778,000	初年度のみ
計	5,298,000	5,298,000÷28(ha)※2

※1 センターは19年償還、コンバインは5年償還。コンバインを5年以上使えばその分経費は安くなる。
※2 ライスセンターの処理能力は28ha（現在25.4ha）なので必要経費は10a当たり、18,900円になる。



センター造りは何より農家の熱意

「生産組合を作りライスセンターで共同作業する、やはり決断がいりましたよ」と組合長の渡辺信行さん（四十四歳）。ほかの組合員も同様だったそう。

板井には五十七年に板井北部ライスセンターが出来ています。「そのときは入ろうとは思わなかったのです。もちろん組合方式の良さは十分わかってはいましたが」。

新農構（前期）はまだ一つもライスセンターがない板井に重点をおき、中でもいちばん熱意のある四番に最初のライスセンターが建てられました。

ライスセンターは町が造るものではないです。町は働きかけ、事務的手続きなどはしますが、建



板井4番生産組合長の渡辺信行さん

「あなたは生産組合に加入したらライスセンターを造る意思があるかないか」というもので、四番の全農家に回答してもらいました。結果は二十六農家中十二戸が○でした。この十二農家と具体的に協議した結果、九月に「板井四番生産組合」が設立されました。

高架橋下の利用で五百万円安上り

板井四番生産組合は最初から新幹線高架橋下を利用できないかと考えていました。さつそく町は国鉄と交渉に入りました。タイミングのよいことに国鉄新潟管理局でも上越新幹線の高架橋下の活用を検討していましたので

話は十二月にまとまりました。高架橋下の利点は左記です。
①屋根工事及び基礎工事が不用なので建設費が安い。
②建設用地として農地をつぶさずにすむ。
③借地料が安い。



○騒音はほとんど気にならない。機械の音の方がはるかに大きい。真下だから鈍い音しかしない。
○借りるとき考えたのは火事。もし火事で新幹線を止めてしまったらどうなるのかと。
○冬が心配といえば心配。高架橋につららが下がる。中にまでつららができることはないと思うが。
○借地料は最初安そうだったが、結果的に予想より高くなった。これももっと安ければいいのだが。
○場所もいい。部落から離れているし、田んぼには近いし。新幹線の側道があるから便利だ。
○センターのいちばんの問題はお金よりも人間関係だと思ふ。人がいればそれだけ考え方も違ふだろうし農業技術も違ふ。
○今は秋作業だけ。田植えや管理は別。一度に全部はできないが、少しずつやっていけると思う。
○センターに限った話ではないが、ゆくゆくは協業化になっていくと思ふ。むずかしいことは確かだが今のままではギリ貧乏だ。



○今年はまだ作はよくないみたいだなあ。コシヒカリがどうなるかわからないけど。センターは造ってよかったと思うよ。
○万一けがや病気のときでもほかの組合員がいるから安心できる。自分でやっているといつもそういう心配がつきまといっていた。
○いちばん喜んでいるのは母ちゃん連中じゃないの。男だけではないんだもの。重いもみかつきをしなくてよくなったし、作業は男だけでいいからね。その分うちにてサービスよくしてほしいね。
○稲刈りの日数は自分だけでやるより四、五日長いと思うが、はるかに楽だし、効率がいい。
○やっぱり良かったと思う。今あるコンバインを捨てることになるけど、長い目で見れば組合方式の方がメリットはあるんじゃないかな。
○新幹線の下を利用できないかと新幹線の工事のころから考えていた。隣の北部ライスセンターもそう考えていたらしいけどまだ新幹線が出来ていなかった。